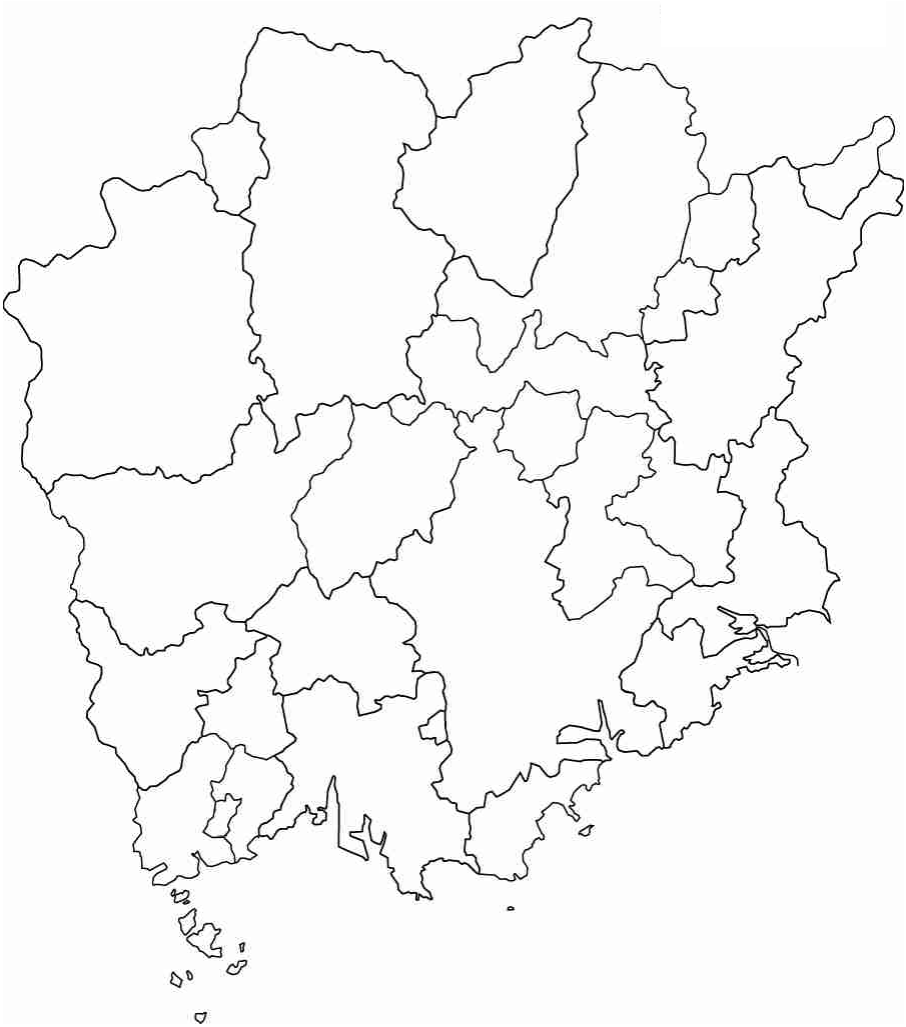
H23 蒼碑祭
これぞ岡山人の本
芳泉高校図書委員会

これぞ岡山人の本



岡山県立岡山芳泉高等学校図書委員会

まえがき

この冊子を手に取ってくださった皆さん、ありがとうございます。

昨年度の、高校生が主人公である本の紹介に続き、今年度は岡山にゆかりのある人々の本を紹介することにしました。今回、私たち図書委員 50 人が紹介する著者 50 人の中には、「え、この人も！？」と意外に思うような人もいるでしょう。

新書や自伝、小説にマンガと色々な分野の本を紹介していますので、読みたいと思う本がきっと見つかると思います。

あなたがこれから手にする一冊が、郷土岡山への関心をさらに深め、読書の機会を増やす事を願っています。きっと、あなたの世界を広げるための力になるでしょう。

和気雅弥（図書委員長）

目 次

碧也ぴんく （漫画家） 04
青山融 （編集者） 05
あさのあつこ （小説家） 06
化野燐 （小説家） 07
有森裕子（元女子マラソン選手） 08
いしいひさいち （漫画家） 09
磯田道史 （大学教授） 10
市川俊介 （歴史学者・元教諭） 11
一条ゆかり （漫画家） 12
岩井志麻子 （小説家） 13
岩本ナオ （漫画家） 14
江田五月 （政治家） 15
大平健 （精神科医） 16
小川洋子 （小説家） 17
片山善博 （政治家） 18
金原瑞人 （大学教授・翻訳家） 19
菅伸子 （菅直人夫人） 20
岸本聖史 （漫画家） 21
岸本斉史 （漫画家） 22
甲田学人 （小説家） 23
河本準一 （お笑い芸人） 24
小手鞠るい （小説家） 25
坂手洋二 （劇作家・演出家） 26
重松清 （小説家） 27
住宅顕信 （俳人） 28
高嶋哲夫 （小説家） 29
高畑勲 （アニメーション作家） 30
高見寿（ｻｲｴﾝｽ・ﾅﾋﾞｹﾞｰﾀｰ・元教諭） 31
拓 （漫画家） 32
立石憲利 （口承文芸研究家） 33
土屋賢二 （大学教授） 34
西靖 （アナウンサー） 35
原研哉（グラフィックデザイナー） 36
原田マハ （小説家） 37
原田宗典 （小説家・エッセイスト） 38
東川篤哉 （小説家） 39
平松洋子（フードジャーナリスト） 40
広井良典 （大学教授） 41
星野仙一 （プロ野球監督） 42
ボンボヤージュ （ｲﾗｽﾄﾚｰﾀｰ） 43
水戸岡鋭治 （工業デザイナー） 44
保江邦夫 （大学教授） 45
八束澄子 （児童文学作家） 46
矢吹健太朗 （漫画家） 47
山尾悠子 （小説家） 48
山口二郎 （大学教授） 49
山田ズーニー （文章表現・コミュニケーションインストラクター） 50
吉岡平 （小説家） 51
流王雄太 （精神科医） 52
脇明子 （大学教授・翻訳家） 53
他、岡山に縁のある人々 54

※NDC の後に「★」印が付いている作品は、岡山芳泉高校図書館に所蔵していない作品です。
お取り寄せについては、図書館までお問い合わせください。

碧也ぴんく

あおまた　ぴんく

『八犬伝』(ホーム社漫画文庫) ※滝沢馬琴原作
出版社:ホーム社／出版年:2004 年／NDC:726.1

作家紹介

岡山県出身の漫画家。家族構成は夫・母と猫三匹。血液型は A 型。1989 年『少年忍者 KUMARI』でデビュー。ほか、「鬼外カルテ」シリーズ、『BLIND GAME』、『土方歳三』(週刊マンガ日本史第 35 号)など。

本作は、曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』をオリジナルアレンジしたもの。

わたしのオススメ

安房国・里見家の伏姫は戦で手柄を立てた飼い主・八房と結婚し、やがて懐妊。犬の子を身ごもった身を嘆き、命を絶つ。その瞬間、姫の数珠から、八つの珠が飛び散った。

その珠と牡丹の痣を持つ八人の青年が、この物語の主人公・八犬士たちである。やがて『八犬伝』は、彼らの青春へと舞台を移していく……。

時代を超えたスケールの大きい物語です。マンガで分かりやすいので、ぜひ読んでみてください。

(H.N)

青山融

あおやま　とおる

『岡山弁 JAGA！』

出版社：アス／出版年：1998 年／NDC：098★

作家紹介

1949 年、津山市生まれ。幼稚園卒園後、岡山市に転居。岡山大安寺高校、東京大学法学部を卒業後、日本交通出版事務局「旅」編集部に入社。

1980 年暮れに帰郷し、翌年株式会社アスに入社、「月刊タウン情報誌おかやま」編集長を 5 年間務めた。

現在は「オセラ」編集顧問。岡山弁協会特別顧問も務めており、各地で行っている「正しい岡山弁のなまり方」などの講演が好評である。

岡山弁のユニークな分析・紹介者として名高い。岡山弁を語る際に、欠かせない人物である。

わたしのオススメ

岡山弁再発見！「岡山弁は英語に近い？」など、奇抜な発想で岡山弁を紹介。それによると、岡山弁はアルファベットで表せたり（OKD＝おーけーでーー＝大きいぞ　etc）、なぜか鶏語（「こけーけー」）や猫語（年配の人は「ない」を「にゃー」と言う）にもなる。加えて、古文に近いと述べられている。

中には、シャーロック・ホームズ＋金田一耕助／2 で出来た岡山弁を話すシャーダイチ・コームズの短編も入れていて（恐らくコームズの性格のモチーフは作者自身と見られる）おもしろく、楽しく岡山弁を再発見できる一冊。

（K.M）

あさのあつこ

あさの　あつこ

『弥勒の月』

出版社：光文社／出版年：2006 年／NDC：913.6

作家紹介

1954 年、英田郡美作町（現・美作市）出身・在住の小説家。林野高校、青山学院大学卒業後、岡山市の小学校で臨時教諭を務めたのち、小説家としてデビュー。幅広いジャンルで活躍をしている。2003 年、第 46 回岡山県文化奨励賞を、2006 年に第 3 回マルセン文化大賞、2010 年に第 63 回岡山県文化賞を受賞。

代表作は『バッテリー』（野間児童文芸賞・日本児童文学者協会賞・小学館児童出版文化賞）、『No.6』、『The MANZAI』など。

『弥勒の月』は藤沢周平に魅せられて書いた、あさのあつこ自身初の時代小説。同心・木暮信次郎と生粋の岡っ引きである伊佐治、そして小間物問屋の遠野屋。3 人の男はある事件をきっかけに関わり始め……。続編として『夜叉桜』、『木練柿』がある。

わたしのオススメ

「このお方が、わからねぇ。」伊佐治は、同心である信次郎に対して最初、感心することもあるが自分にはそぐわないとも感じていた。しかし、ある事件をきっかけに遠野屋と知り合い、伊佐治と信次郎の関係性も変化していく。後半では、遠野屋の過去が核となり、事件の全容が暴かれていく。

遠野屋が自らの過去に悩みながら立ち向かうところはとても共感でき、遠野屋と信次郎の関わり合いは緊張感もあって、魅力的なやりとりだ。信次郎は物語が進むに連れ人となりが分かってきて、とても魅力がある。あさのあつこ独特の雰囲気や空気感がクセになること間違いなしだ。　　（N.O）

化野燐

あだしの　りん

©角川書店

『葬神記　考古探偵一法師全の慧眼』(角川文庫)

出版社:角川書店／出版年:2011 年／NDC:913.6★

作家紹介

1964 年生まれの岡山県生まれ、岡山県在住の妖怪研究家であり評論家、小説家。東アジア怪異学会会員。

考古学の学芸員を経て、1999 年『幻想文学』第 56 号に投稿した評論「くだんの故郷」でデビュー。以降、同誌への他に水木しげる創案の季刊妖怪マガジン『怪』や『幽』などへ論考・書評を寄稿している。

2005 年には『蠱猫　人工憑霊蠱猫 01』(講談社ノベルス)で小説家としてもデビュー。おもな著書として、「人工憑霊蠱猫」シリーズがある。

わたしのオススメ

「君には、思考力がないのだな。」

考古学者であり、「考古探偵」の異名(本人は不服)を持つ一法師全(いっぽうし　ぜん)は、キレ者であるが口は滅法悪い。だけど、どこか憎めない人物。

今回の事件は、T 市の五百木遺跡で起きた「足跡がない」怪死事件。さらに、地元の老人達やネット上で騒がれている「ぬかと様」という神。謎が謎を呼び、誰もが頭を抱える中、一法師の推理が真実を照らし出す……。

考古学に詳しくなくても楽しめるミステリー小説です。ぜひ一度お試しあれ。

(T.H)

有森裕子

ありもり　ゆうこ

『わたし革命　Be proud of yourself』

出版社：岩波書店／出版年：2003 年／NDC：782.3

作家紹介

1966 年生まれ、岡山市出身の元女子マラソン選手。就実高校、日本体育大学卒業後、リクルートへ入社。1992 年バルセロナオリンピックで銀メダル、1996 年アトランタオリンピックで銅メダルを獲得。アトランタ五輪でゴール後、「初めて自分で自分をほめたいと思います」と涙ながらに語った姿は感動を呼び、その年の流行語大賞に選ばれた。

1992 年に岡山県スポーツ栄誉賞を受賞。1998 年 NPO 法人「ハート・オブ・ゴールド」、2002 年アスリートのマネジメント会社「ライツ」設立。2004 年、岡山県総合グラウンド内に森裕子像が設置された。2010 年、国際オリンピック委員会（IOC）女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。現在は、国連人口基金親善大使、スペシャルオリンピックス日本理事長など、国際的な活動に幅広く取り組んでいる。

わたしのオススメ

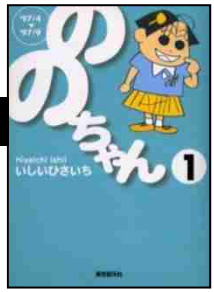
「思い続ければ、夢は叶う」。エリートランナーではなかった彼女は様々な人との出会いで成長し、気持ちでは人には負けないよう自らを高めていく努力を怠らなかった。そして二度のオリンピックでメダルを獲得し、日本陸上選手初のプロ契約をする。

有森さんの苦しいことを走る力に変えてしまう情熱や根性には感激しました。スポーツをしている人も、そうでない人にも読んで欲しい一冊です。

（S.S）

いしいひさいち

いしい　ひさいち



『ののちゃん』

出版社：東京創元社／出版年：2003 年／NDC：726.1★

作家紹介

朝日新聞に連載されている「ののちゃん」が、2011 年 8 月、ついに 5000 回を超えました。実に 10 年以上連載していることになります。

岡山県に縁がある高畑勲を監督に、『となりのやまだ君』がジブリで映画化されています。代表作は『がんばれ！！タブチくん！！』、『忍者無芸帳』、『だからどーした劇場』など。

出身地である玉野市には展覧会場「ののちゃんち」ができ、話題になっています。

わたしのオススメ

第 3 小学校 3 年 3 組、3 バカと対をなす、女 3 バカがひとり、題名にもなっている、みんなの「ののちゃん」。

おおざっぱなお母さん。忘れん坊なお父さん、テストの後で勉強頑張るお兄さん、ハードボイルドなおばあちゃん。ほかにも個性ゆたかなキャラクター達、日常にありふれた、だけど絶対ありえない面白話、たくさん笑ってください！！！

（R.Y）

磯田道史

いそだ　みちふみ

『武士の家計簿』（新潮新書）

出版社：新潮社／出版年：2003 年／NDC：210.58

作家紹介

1970 年、岡山市生まれ。茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科准教授。専門は日本近世史、日本経済史。

岡山大安寺高校、慶応義塾大学文学部卒業。現在では、歴史学者として多くの本を出版しています。2003 年、金沢藩の御算用者(経理係)を務めた猪山家文書を入手、中に含まれていた天保 13 年(1842 年)から明治 12 年(1879 年)までの家計簿を研究。それらをまとめて 2003 年に刊行した「武士の家計簿」が大ヒット作となり、一躍有名な作家となりました。同作品は第 2 回新潮ドキュメント賞を受賞（2003 年）、さらに、2010 年には俳優の堺雅人さんが主演で映画化され、大きな話題となりました。

わたしのオススメ

武士ではあっても算盤を片手に計算することを生業とした、今で言う会計処理の専門家「加賀藩御算用者」が残した家計簿を磯田さんが見つけるところからこの作品は始まっていきます。

昔の武士の生活の様子や、意外に女性のお小遣いが高かったことなど、私たちが持っている武士のイメージがガラッと変わっていくきっかけとなってとても面白く、勉強になる作品です。映画になったので知っている人も多いと思いますが、ぜひ読んでみてください！

（N.N）

市川俊介

いちかわ しゅんすけ

『岡山戦国物語』(吉備人選書 8)

出版社:吉備人出版／出版年:2010 年／NDC:092

作家紹介

大正 13 年生まれ。早稲田大学卒業。岡山県下の中学・高校教諭や、岡山市教育委員会文化財専門監、岡山郷土資料所在調査委員などを歴任。お隣の岡山市立芳泉中学校初代校長先生でもある。

著書はその他にも『岡山の神社仏閣』、『岡山城物語』、『岡山の城と城址』(共著)など多数ある。

わたしのオススメ

戦国時代の岡山について描いた一冊。小説ではないため、少し難しいかもしれないが、戦国時代の岡山について知るにはとてもオススメの本だ。まず戦国時代の様子から始まる。次に、岡山の戦国初期・群雄割拠の時代から宇喜多直家の備前統一、備中高松城の水攻め、そして直家の子・秀家の人生とつづき、最後に岡山城、その他の人物となっている。

この著書を読み、一番印象に残った人物がいる。宇喜多直家だ。年少の時に没落した家を再興した人物であり、岳父(妻の父)や女婿を謀殺した人物でもある。自分がかなわない敵を“鉄砲”を用いて暗殺した人物でもある。この人物を極悪非道ととるかは自由だが、私は戦国時代を見事に生き抜いた人物だと思う。

岡山の戦国時代を知りたい人はぜひ一度読んでほしい一冊だ。

(K.H)

一条ゆかり

いちじょう　ゆかり

『有閑倶楽部』(集英社文庫)

出版社:集英社／出版年:2000 年／NDC:726.1★

作家紹介

1949 年、玉野市生まれの漫画家。玉野市立玉野商業高校卒業。小学生の頃から漫画家に憧れ、高校 2 年の時、短編「雨の子ノンちゃん」を描きプロの道に。1968 年、『雪のセレナーデ』で第 1 回りぼん新人漫画賞準入選を果たし、漫画家デビューする。代表作は、『砂の城』、『有閑倶楽部』など。シリアスな作品を執筆する傍ら、コメディー色の強い作品やエッセイも執筆している。

『有閑倶楽部』では、聖プレジデント学園に通う 6 人の生徒を主人公に、大小様々な事件を解決していく学園アクションコメディーを描いている。1986 年に第 10 回講談社漫画賞少女部門を受賞し、ドラマ化もされている。

現在、「有閑倶楽部×さんすて」として、JR 岡山駅の複合商業施設「さんすて岡山」とコラボ。ポスターや館内案内にキャラクターが登場している。

わたしのオススメ

聖プレジデント学園に通う金と暇を持てあました6人組、剣菱悠理、菊正宗清四郎、白鹿野梨子、松竹梅魅録、黄桜可憐、美童グランマニエは「有閑倶楽部」のメンバー。彼らは全員性格も価値観もバラバラだけど、みんな仲良し。たくさんの事件に巻き込まれ、ド派手に解決する痛快アクションコメディーです。

読んでいて笑わずにはいられないシリーズです。漫画だから気軽に読めるので、読まなきゃ損です！ぜひ読んでみて下さい！

（M.Y）

岩井志麻子

いわい　しまこ

©角川書店

『ぼっけえ、きょうてえ』

出版社：角川書店／出版年：1999 年／NDC：913.6

作家紹介

1964 年、和気郡和気町生まれの小説家。和気閑谷高校卒業。

高校に在学中の 1982 年、第 3 回小説ジュニア短編小説新人賞に佳作入選しました。22 歳の時の 1986 年に少女小説「夢みるうさぎとポリスボーイ」で作家デビューを果たし、人気コミックのノベライズなども手掛けています。

また、2000 年に山本周五郎賞、2002 年に婦人公論文芸賞、島清恋愛文学賞など、たくさんの賞を受賞しています。

わたしのオススメ

第 6 回日本ホラー大賞受賞作を含む短篇集です。

ある 1 人の女郎が客に、自分のひどく苦しい生き方をしてきたことを語ります。その話の中には岡山の方言がたくさん含まれており、私たち岡山県民にとってはとても親しみのある文章の形をしています。 この「ぼっけえ、きょうてえ」の他にも書き下ろし短編が 3 本含まれています。ホラーとしての恐怖というよりも、私たち人間の心の中の闇に関する恐怖が描かれていると思います。

幽霊よりも人間の方が断然怖い……かも？

（N.F）

岩本ナオ

いわもと　なお

『雨無村役場産業課兼観光係』
（フラワーコミックスアルファ）

出版社：小学館／出版年：2008 年／NDC：726.1

作家紹介

灘崎町（現・岡山市南区灘崎町）出身の漫画家。2004 年、「その彼女の存在」で第 10 回月刊 flowers コミックオーディション金の花賞を受賞し、月刊 flowers（小学館）2004 年 5 月号に掲載されデビュー。『町で噂の天狗の子』で第 55 回（平成 21 年度）小学館漫画賞少女向け部門を受賞、『このマンガがすごい！2009』オンナ編で 5 位に選ばれている（『雨無村役場産業課兼観光係』も 6 位にランクイン）。

「自分が育った土地を舞台にした作品しか書けない」、「連載するのに自分の知らない土地を長期間舞台にするのは緊張する」と公言しており、故郷を舞台にした作品を多く描いている。

本作品は、作者の出身地である旧・灘崎町が舞台となっており、奥迫川の大山桜をモチーフにした桜の木が登場している。

わたしのオススメ

この作品で私がオススメしたいのは、主人公の春野銀一郎と、その幼なじみである谷恵、そして、銀一郎に恋心をよせる春野澄雄の三人が送る田舎での暮らし、地域の復興、そして恋愛……これらが素晴らしい自然の描写の中で繰り広げられているところです。

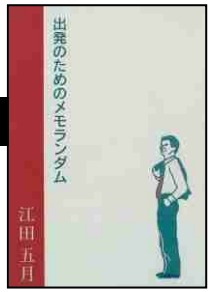
私はこの「雨無村」こと、旧・灘崎町に住んでいますが、この本を読み、田舎に対する考え方を変え、田舎もいいところなんだと実感しました。

是非、皆さんに読んでいただきたい作品です！！

（S.I）

江田五月

えだ さつき



『出発のためのメモランダム』

出版社：毎日新聞社／出版年：1996 年／NDC：289.1★

作家紹介

1941 年、上道群財田村(現・岡山市中区)に生まれ、岡山朝日高校卒業後、東京大学に入学し、在学中に司法試験に合格。卒業後は裁判官の道を選び、地方裁判所で判事補を務めた。その後、父の死をきっかけとして 1977 年に国会議員に転身。

現在は、岡山選挙区から選出され、法務大臣（第 14 代）と環境大臣を兼任する参議院議員である。

他、著書に『国会議員』（講談社現代新書、1985 年発行）がある。

わたしのオススメ

江田五月氏が裁判官から政治家へ転身することをきっかけにそれまでの半生を記した一冊。幼児期の北京での生活、大学生時代の学生運動など、世代によってはピンと来づらい部分もあるが、子ども時代の習い事や学生生活から学んでいること、裁判官としてみてきた物事の数々は 2011 年の今読んでみても全く違和感を受けない。

今となってはごく当たり前と思っているような社会の事を再び思い起こさせてくれる一冊である。

（M.W）

大平健

おおひら　けん

『やさしさの精神病理』(岩波新書新赤版)

出版社:岩波書店／出版年:1995 年／NDC:141.6

作家紹介

1945 年生まれの精神科医。岡山大安寺高校、東大医学部卒業後、しばらくしてペルーに 1 年滞在し貧困街で診療、帰国後は聖路加国際病院に勤務し、現在聖路加国際病院精神科部長。

ソフトな語り口が人気で、著書に『豊かさの精神病理』(岩波新書)、『純愛時代』(岩波新書)、『動物がお医者さん』など。

わたしのオススメ

現代社会に充満する様々な形の〝やさしさ〟や時代の変化による〝やさしさ〟の変化などを、患者自身の人づきあいを通して解き明かしていきます。

精神病の原因をさぐる診察中、実際に患者と交わされた会話を紹介しており、会話のやりとりから病気の原因を見つけるための著者の注意の払い方、質問の的確さに魅了されます。

対話形式で書かれているので読みやすく、現代の様々の精神病や、心と体の密接な結びつきを目の当たりにするでしょう。

(M.T)

小川洋子

おがわ　ようこ

『博士の愛した数式』

出版社：新潮社／出版年：2003 年／NDC：913.6

作家紹介

1962 年岡山市生まれで、岡山朝日高校、早稲田大学第一文学部文芸科を卒業されています。

1988 年『揚羽蝶が壊れる時』で海燕新人文学賞、1991 年には『妊娠カレンダー』で第 104 回芥川賞を受賞。また、1991 年に第 33 回岡山県文化奨励賞を、2005 年に第 2 回マルセン文化大賞を受賞されました。

主な著作に『冷めない紅茶』、『沈黙博物館』、『シュガータイム　』、『アンネ・フランクの記憶』、『妊娠カレンダー』など。『博士の愛した数式』は、第 50 回青少年読書感想文コンクールの課題図書であり、本屋大賞や読売文学賞受賞作でもあります。

わたしのオススメ

事故によって記憶が 80 分しかもたず、1975 年で終わっている「博士」、彼の家政婦を務める「私」とその息子「ルート」の物語です。この 3 人がたくさんの出来事を通しながらお互いに信頼関係を築いていき、そしてルートが大人になって就いた職業とは？

「数式」と聞くと数学を思い浮かべてしまう人が多いと思います。私自身数学は苦手で好きではありませんが、こんな私でも「数学って面白いんだ」と思わせてくれた作品でした。

（M.M）

片山善博

かたやま　よしひろ

『日本を診る』

出版社：岩波書店／出版年：2010 年／NDC：312.1

作家紹介

1951 年、赤磐郡瀬戸町（現・岡山市東区）生まれ。

岡山県立岡山大安寺高等学校、東京大学法学部卒業後、自治省に入省した。鳥取県知事や国土庁への出向を経て、自治大臣秘書官、自治省国際交流企画官、固定資産税課長、府県税課長などの役職を歴任し、1998 年 12 月に退官。

現在は総務大臣であり、行政刷新会議メンバー、慶應義塾大学法学部客員教授（地方自治、地方財政、地方税）、鳥取大学地域学部地域政策学科客員教授（自治体経営論）も務める。

わたしのオススメ

鳥取県の「改革派知事」として活躍し、今また総務大臣として期待を集める著者の日本経済分析が一冊にまとめられている。

地方自治体、永田町、霞が関で起こる日々の事件からどこに病があるのか、その原因を診断。政治の現場と官僚の習性を知り尽くした著者ならではの大胆な処方箋を提示する。

自治体の自立から税金、地方分権、政権交代に至るまで、幅広い分野について著者の率直な気持ちをそのまま記しているところが魅力である。

（J.M）

金原瑞人

かねはら　みずひと　（翻訳）

『青空のむこう』

アレックス・シアラー著、金原瑞人訳
出版社：求竜堂／出版年：2002 年／NDC：933.7

作家紹介

1954 年生まれの翻訳家・児童文学研究家・法政大学社会学部教授。専門は英米児童文学。
岡山大安寺高校、法政大学文学部英文学科卒業、同大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了。
「プリンセスダイアリー」シリーズ（メグ・キャボット）、『ゼブラ』（ハイム・ポトク）、『サラ　神に背いた少年』（J.T.リロイ）、『フェイス』（ベンジャミン・ゼファニア）など、ヤングアダルト作品を数多く研究・翻訳・紹介している。
また、法政大学社会学部で小説創作ゼミを開講し、古橋秀之、秋山瑞人、早矢塚かつや、志瑞祐、金原ひとみといった小説家を輩出している。なお、『蛇にピアス』で芥川賞を受賞した作家・金原ひとみは実娘。

わたしのオススメ

交通事故で死んでしまったハリーは姉に言ってしまったひどい一言が心残りで〈彼方の青い世界〉に行けないでいる。心残りを無くすためにハリーは生きている人の世界に幽霊として戻ってくる。学校や家に行き，友達や家族のことを見ながら色々なことを考え，悩む。
ハリーは生きていることで感じられる些細なことが幸せだと教えてくれた。感動するだけでなく少しユーモラスで読みやすい本だと思った。
たくさんの人に読んでほしいと思う。

（A.B）

菅伸子

かん　のぶこ

『あなたが総理になって、いったい日本の何が変わるの』（幻冬舎新書）

出版社：幻冬舎／出版年：2010 年／NDC：289.1

作家紹介

1945 年、岡山県に生まれる。高校まで地元の金光学園で過ごし、津田塾大学に入学。卒業後、早稲田大学に編入し卒業。津田塾大在学中、東京の菅家に下宿して従兄弟の直人氏と親しくなり結婚。二男を儲ける。直人氏が内閣総理大臣に就任して以降も第 22 回参議院議員通常選挙などで各候補の応援演説を行っている。

初の出版となった本作は、発売後 1 週間で 6000 部売り上げ、夫の直人氏の『大臣』の売り上げを抜いた。

わたしのオススメ

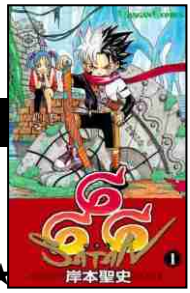
今、メディアに注目されている菅直人総理大臣について、妻・伸子が話す。夫が内閣総理大臣に任命されてファーストレディーになった妻・伸子の生活は激変！！！慣れない生活が始まる。私たちの知らなかった総理の私生活・今の菅総理が出来るまでの過程という妻しか知らない秘密も暴露されています。また、妻ならではの代表質問（消費税・子ども手当・高校無償化など）がされています。

妻・伸子から見た菅総理をぜひ味わってほしいと思います。

（M.N）

岸本聖史

きしもと　せいし



『666～サタン～』(ガンガンコミックス)

出版社：スクウェア・エニックス／出版年：2001 年／NDC：726.1★

©Seishi Kishimoto / SQUARE ENIX

作家紹介

1974 年、勝田郡奈義町生まれの漫画家。岸本斉史は双子の兄。

2000 年に『TRIGGER』でデビューした。ほか、『666～サタン～』、『ブレイザードライブ』などの作品がある。

わたしのオススメ

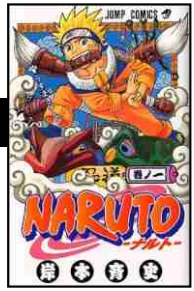
トレジャーハンターの少女ルビィは、世界中に眠る不思議な力をもつ超古代文明の遺産であるオーパーツを探す旅の途中で、世界征服を目指す少年ジオに出会う。「友だち」として共に旅を続ける 2 人だったが、ジオには圧倒的な力を持つもう一つの人格、サタンが存在した……。

旅先での新たな出会いや天使と悪魔の存在、暗躍する二つの組織、読めば読むほど物語に引き込まれていく内容です。ジオとルビィの成長していく姿にも注目して、一度読んでみて下さい。

（T.Y）

岸本斉史

きしもと　まさし



©岸本斉史 スコット／集英社

『NARUTO』（ジャンプ・コミックス）

出版社：集英社／出版年：2001 年／NDC：726.1★

作家紹介

1974 年、勝田郡奈義町生まれの漫画家。岸本聖史は双子の弟。

『カラクリ』でホップ☆ステップ賞佳作を受賞し、1996 年にデビュー。1999 年より週刊少年ジャンプで忍者の頭目を目指す少年を主人公にした『NARUTO』の連載が始まり、コミックス累計発行部数が 1 億冊を超える大ヒットに。同作はテレビアニメ化もされており、日本国外での知名度も高い。

作風は子どもの頃にファンだった鳥山明や大友克洋の影響がみられ、作画面では西尾鉄尾の影響を受けている。また、桜玉吉のアシスタントだったこともある。

わたしのオススメ

ナルトという一人の忍に起こる出来事を描いた物語です。複雑な人間テーマを考えさせられたり、ちょっとしたギャグで笑わされたり、とにかく楽しんで読める漫画です。

私が『NARUTO』の中の台詞で気に入っているのは、「俺が諦めるのを諦めろ！！！！」（47 巻 p.189-190）と「賢いってことがそういうことなら……俺は一生バカでいい……」（27 巻 p.42）です。

他にも、名言だ！と思うような台詞がたくさんあります。自分のお気に入りの台詞を探してみてはどうでしょう。

（Y.S）

甲田学人

こうだ　がくと

『Missing　神隠しの物語』(電撃文庫)

イラスト:翠川しん／出版社:アスキー・メディアワークス

出版年:2001 年／NDC:913.6★

作家紹介

1977 年、津山市生まれのライトノベル作家。二松学舎大学卒業。

第 7 回電撃ゲーム小説大賞(現・電撃小説大賞)で短編小説『罪科釣人奇譚』が最終選考に残り、2001 年に『Missing　神隠しの物語』でデビュー。

豊富なオカルト・民俗学の知識を有しており、単なるライトノベルに収まらない本格的現代ホラーファンタジーが著書の特色。また、自分の作品はホラーではなくメルヘンである、と再三主張している。

著書に『Missing』(全 13 巻)、『断章のグリム』、『夜魔』がある。

わたしのオススメ

この作品は全 13 巻と決して短くないが、それに見合うだけの濃密な文章が凝縮されている。ライトノベルだからといって馬鹿に出来ない文章力・表現力・構成力は息を呑むものがある。しかし、かなりの残酷表現が含まれているのでホラーが苦手なひとにはあまりオススメできない。だが、その描写一つ取っても他の子ども騙しのホラーとは格が違う。背筋が凍るような、自分自身がその危険に晒されているかのような、痛みがありありと想像できる文章がそこにはある。一巻の「神隠しの物語」は少々荒削りだが、登場人物の魅力と物語展開にすぐに引きずり込まれるだろう。続き物なので一巻からの伏線・キャラの変化・ラストの衝撃が見所である。最終巻は押絵を挟む余地のない怒涛の展開。是非、この恐怖と全てのピースがはまったときの快感を味わっていただきたい。　(M.H)

河本準一

こうもと じゅんいち

『一人二役』

出版社：ワニブックス／出版年：2007 年／NDC：913.6

作家紹介

1975 年名古屋出身のお笑い芸人。小学 3 年から 6 年まで岡山津山市に、更に岡山市に転居している。岡山市立京山中学校、東岡山工業高校卒業。

1994 年にトリオ「次長課長社長」を結成したが、「社長」にあたる山下が脱退したため、コンビ「次長課長」に変更。現在は、バラエティ番組のみならず、俳優としても注目が集まっている。

2011 年 2 月に津山地域でロケが行なわれた映画「ホルモン女（おんな）」の出演がきっかけで、同年 6 月より津山市観光大使を務めることになった。

他の著書に『鬼嫁合衆国』がある。

わたしのオススメ

河本準一と母との生活を描いた本。これは母、母の中に生まれた父、そして河本準一との三人の物語。

どんな環境でも、環境を恨まず、日常の行動パターンを変えれば、現状から脱却できる抜け道は必ず見つかるという、一歩を踏み出すきっかけになるような本である。

（K.U）

小手鞠るい

こでまり　るい

『サンカクカンケイ』

出版社：世界文化社／出版年：2007 年／NDC：913.6

作家紹介

1956 年、備前市生まれ。岡山朝日高校、同志社大学卒業後、出版社に勤める。現在は小説家。特に、恋愛小説で人気を博している。代表作は『空と海のであう場所』、『別れのあと』、『ロング・ウェイ』他。

受賞歴は 1981 年第 7 回サンリオ詩とメルヘン賞、2005 年第 12 回島清恋愛文学賞他。

恋愛小説以外にも絵本・童話・エッセイなども手がけている。

『サンカクカンケイ』は出身地である岡山県出身の男女 3 人の恋愛模様を描いた作品である。

わたしのオススメ

岡山県出身の会社員あかねは、学生時代に自己中心的な同級生の龍也と付き合っていた。サディスティックで怖い存在なのに、あかねは彼を求めてしまう。そんな 2 人を温かく見守っていたのがあかねの幼馴染みの俊輔だった。月日が流れ、役者志望の龍也が京都の劇団に入団することになる。あかねも彼を追って京都の大学に進学するが……。

龍也をただひたすら求め続けるあかねと我が道を走り続ける龍也、そして長年 2 人のサポート役だった俊輔。読む人によって違った人に共感するでしょう。また、この作品には「勿忘草（わすれなぐさ）」という植物が登場する。自分を忘れて欲しくない様々な登場人物の葛藤も見所だ。

（S.S）

坂手洋二

さかて　ようじ

『ブレスレス／カムアウト　坂手洋二戯曲集』

出版社：而立書房／出版年：1991 年／NDC：912.6

作家紹介

1962 年、岡山県生まれの劇作家・演出家。岡山芳泉高校、慶應義塾大学文学部国文科卒。

1983 年、劇団「燐光群」を旗上げ、『黄色い犬』でデビュー。 作品は「社会派」と呼ばれ、社会問題や戦争責任等をモチーフにした作品も数多い。

代表的な作品に『天皇と接吻』（第 7 回読売演劇大賞優秀作品賞）、『最後の一人までが全体である』（第 10 回読売演劇大賞優秀作品賞）、『だるまさんがころんだ』（第 12 回読売演劇大賞選考委員特別賞）がある。また、『屋根裏』『だるまさんがころんだ』等により、岸田國士戯曲賞、鶴屋南北戯曲賞、読売文学賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞。現在、日本劇作家協会会長、日本演出者協会理事、国際演劇協会日本支部理事を務めている。

わたしのオススメ

私が数多い坂手洋二作品の中からおすすめするのは『ブレスレス・カムアウト』の「カムアウト」という作品です。

同性愛者の問題を取り扱った作品で、題名にもなっている「カムアウト」とは“カミングアウト” 、つまり、自己のセクシャリティーを告白することです。この他、ジャンボ機墜落、9.11、地雷、沖縄など、坂手氏は常に時代と社会を問い続けています。演劇の可能性を強く感じられる作品でした。

（A.G）

重松清

しげまつ　きよし

『きみの友だち』

出版社：新潮社／出版年：2005 年／NDC：913.6

作家紹介

1963 年、久米郡久米町（現・津山市）生まれ。久米町町民栄誉賞受賞。早稲田大学教育学部国語国文学科卒業。

出版社勤務を経て、1990 年から作家として本格的に活動を始め、1999 年に『ナイフ』で第 14 回坪田譲治文学賞を受賞する。ほか、『エイジ』で第 12 回山本周五郎賞、『ビタミン F』で第 124 回直木三十五賞、2011 年に第 8 回マルセン文化大賞を受賞するなど、多くの賞を獲得している。

『きみの友だち』が2006年の岡山県高校入試国語の小説問題に、『その日のまえに』が第 52 回青少年読書感想文コンクールの課題図書に選ばれており、いずれも映画化されている。

わたしのオススメ

小学生の時に交通事故に遭い、松葉杖での生活を余儀なくされた恵美ちゃん、成績優秀でスポーツ万能な恵美ちゃんの弟ブンを軸として「きみ」と呼ばれる 10 人の主人公が各編で登場し、それぞれの視点から主人公の複雑な心情が描かれている短編小説。

「いなくなっても一生忘れない友だちが一人いればいい」。恵美ちゃんの言ったこの言葉が印象に残る。かつ、「友だち」という普段気軽に使っていた三文字について深く考えさせられた。無愛想だけど、由香ちゃんという生まれつき体の弱い友達を誰よりも思いやる恵美ちゃん。誰にも邪魔されず、永遠に壊れることのないブンとモトの堅い絆。そんな関係をうらやましいと思う自分が心のどこかにいた。読み終わった頃には、友だちの本当の意味について考えずにはいられないだろう。　（T.Y）

住宅顕信

すみたく けんしん

『ずぶぬれて犬ころ』

出版社：中央公論新社／出版年：2002 年／NDC：911.36

作家紹介

1961 年、岡山市生まれの俳人。本名は住宅春美（すみたくはるみ）である。岡山市立石井中学校出身で、1976 年の 4 月に岡山市内の下田学園調理師学校に入学した。同時に就職し、昼は勤務し、夜は通学という生活を送っていた。4 歳年上の女性と知り合い、同棲を始める。この頃より詩、宗教書、哲学書に親しむ。1987 年 2 月 7 日、白血病のため 25 歳で亡くなった。

岡山市京橋西詰旭川緑地に句碑「水滴のひとつひとつが笑っている顔だ」が建立されている。

わたしのオススメ

この本は顕信の代表作のひとつで、自由律俳句である。

「気の抜けたサイダーが僕の人生」という出だしから始まる。自由律俳句で定型のリズム感はないが、平易な言葉を使っていて、ちょっぴり寂しい気持ちになる作品である。

「若さとはこんなに淋しい春なのか。」という句もあるが、現代の若者の寂しさを良く表していると思う。目を通してもらいたい。

（Y.I）

高嶋哲夫

たかしま　てつお

『ミッドナイトイーグル』(文春文庫)

出版社:文藝春秋／出版年:2003 年／NDC:913.6

作家紹介

1949 年、玉野市生まれ。玉野高校、慶應義塾大学工学部卒業後、通産省電子技術総合研究所、日本原子力研究所で核融合の研究活動をする。1978 年カリフォルニア大学大学院に留学し、日本語補習校「あさひ学園」の教壇にも立つ。1979 年、日本原子力学会技術賞受賞。1981 年帰国し、学習塾を開いた。なお、塾を離れた今も全国学習塾協同組合の理事である。

彼の作品には、自然災害をテーマにした『TSUNAMI 津波』、『M8』、『東京大洪水』、また『イントゥルーダー』(第 16 回サントリーミステリー大賞・読者賞)、『ミッドナイトイーグル』(2007 年に映画化)、『メルトダウン』(第 1 回小説現代推理新人賞)、などのミステリーサスペンスものなど様々なジャンルを扱った作品がある。『風をつかまえて』 は第 56 回青少年読書感想文全国コンクール課題図書(高等学校の部)に選定された。

わたしのオススメ

米空軍のステルス爆撃機が飛騨山脈に墜落した。戦場カメラマンの西崎勇次はその真相を探りに吹雪の雪山へと向かうが、そこで彼は過酷な戦闘に巻き込まれてしまう。一方、週刊誌記者の松永慶子はアメリカ軍横田基地へ侵入し銃撃戦の末逃走した北朝鮮工作員に接触する。物語が進むにつれ 2 つの事件の裏に潜む恐ろしい国際的陰謀が明らかになってゆく……。

圧倒的な迫力と緊張感で読む手が止まりません。また様々な立場からの信念や正義が描かれておりとても考えさせられる作品です。

(Y.K)

高畑勲

たかはた いさお

『一枚の絵から 日本編』

出版社：岩波書店／出版年：2009 年／NDC：720.4★

作家紹介

1935 年生まれのアニメーション映画監督、プロデューサー、翻訳家。

岡山朝日高校、東京大学文学部仏文科卒業。学生時代にポール・グリモーの「やぶにらみの暴君」を見て感動、昭和 36 年東映動画に入社。初監督は 1968 年『太陽の王子ホルスの大冒険』。1985 年、宮崎駿らとスタジオジブリを設立。

主な脚本・演出・監督作品に『アルプスの少女ハイジ』、『火垂るの墓』、『平成狸合戦ぽんぽこ』、『ホーホケキョ となりの山田くん』（原作は玉野市出身の漫画家・いしいひさいち）など多数。プロデューサーとしての作品は『風の谷のナウシカ』、『天空の城ラピュタ』など。著書に『話の話』、『映画を作りながら考えたこと』などがある。

わたしのオススメ

この本は、スタジオジブリが発行する『熱風』という小冊子に 2003 年 1 月から 2008 年 6 月まで連載されていた「一枚の絵から」を、海外編と日本編に分けて出版したものである。 カラーで美しい写真を眺めつつ、1 枚 1 枚の絵について、著者のわかりやすい解説や展覧会で見たときの感想などを楽しんで読むことができる。いろいろな作品が載っているので、お気に入りの 1 枚が見つかるはず。そして、美術館に足を運びたくなるはず！！

（S.T）

高見寿

たかみ　ひさし　（共著）

『新しい高校物理の教科書』（ブルーバックス）

編著：山本明利・左巻健男／出版社：講談社

出版年：2006 年／NDC：420

作家紹介

1949 年生まれ。元・岡山操山高校教諭で、問題集の問題が解けることが物理が分かったということではないと、日々奮闘している。簡単だが奥は深いという、物理実験を考えるのが大好き！恩師の言葉「physical meaningを考えろ」をいつも思い出し、メールアドレスに“ma-equal-f”を使っている。著書に『教室でできる 5 分間ぶつり実験』、執筆に関わった本として『物理なぜなぜ辞典』、『早わかり物理 50 の公式』、『身近な道具で大実験』などがある。

わたしのオススメ

「物理の授業がよくわからない！」、「テストでいい点が取りたい！」

そのような人におすすめの一冊です。この本は自分の身の回りの現象と絡めて説明してあるので、物理がよくわからない人でも読みやすく、楽しみながら理解していくことができます。

物理が苦手な友達もこの本を読んで定期テストで 90 点台を取ることができました。皆さんもこの本を読んで物理の神様になってください。

（M.O）

拓

たく

『めくりめくる　1 巻』

出版社：ワニブックス／出版年：2010 年／NDC：726.1

作家紹介

倉敷市出身の漫画家。現在、倉敷市を舞台に輝く少年少女たちの日常を描いた青春ストーリー『めくりめくる』を月刊コミックガムで連載中。

同作品が倉敷を舞台にしていることから、倉敷市とタイアップした観光キャンペーンが幅広く展開されている。倉敷駅などを描いたイラストが観光ポスターに採用されたり、単行本の限定版に倉敷を紹介するページを掲載したり、「旅のしおり」発行に併せてスタンプラリーが行われたりするなど、新たな観光客層の獲得に繋がっている。さらに、倉敷市は 2011 年夏、国内最大の同人誌即売会「コミックマーケット 80」に出版社と共同出典し、話題を呼んだ。

わたしのオススメ

この作品では一話ずつ登場人物達が異なっている。しかし、どの話でも主人公は高校生だ。少年少女たちは、私達と変わらない日常を、友情や恋愛といった青春と共に見覚えのある景観の中で送っている。

絵はとても爽やかなテイストで、登場人物達の全てから等身大ののびのびとした印象を強く受けた。

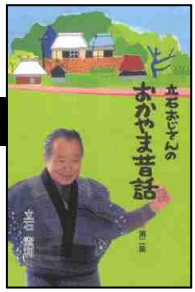
コミックスのカバーで、1 巻は倉敷駅、2 巻では美観地区の中橋が淡い色使いで描かれているのも魅力を感じる点の一つだと感じる。

“青春”を感じたい方にオススメの一冊。

（C.K）

立石憲利

たていし　のりとし



『立石おじさんのおかやま昔話　第 2 集』

出版社：吉備人出版／出版年：2004 年／NDC：093

作家紹介

1938 年、久米郡久米町（現・津山市）生まれの口承文芸研究家。1950 年代から民俗、特に日本の昔話や中国山地の昔話・民話の調査・研究を行い、岡山県内などで約 7000 話を収録。80 年ごろより民話の語りを始める。

岡山民俗学会賞（1974 年）、第 44 回久留島武彦文化賞、山陽新聞賞（文化功労）、第 59 回岡山県文化賞など多数受賞。

わたしのオススメ

この本は、岡山の昔話を集めて一冊の本にしたものです。短編集なので読みやすく、とてもおもしろい話が多いです。

また、岡山の話なので、実際に行ったことがある地名なども数多く出てきて、想像しやすく親近感がわいてくる本です。

岡山弁で、ふるさと・岡山に親しみましょう。是非、読んでみてください。

（M.H）

土屋賢二

つちや　けんじ

『簡単に断れない。』

出版社：文藝春秋／出版年：2004 年／NDC：914.6★

作家紹介

1944 年、玉野市生まれ。岡山操山高校、東京大学文学部哲学科卒業。お茶の水女子大学名誉教授。

50 歳の時、ユーモアエッセイの単行本を初めて出版した。著書に『もしもソクラテスに口説かれたら』、『われ笑う、ゆえにわれあり』、『あたらしい哲学入門』など。ときおり著書にイラストを描いている「いしいひさいち」は、小学校の後輩である。

わたしのオススメ

「これは哲学なのか！？」いや、確かに哲学の分類においてある。しかし、この読みやすさはなんなんだ！というのが初めの感想だ。

まず、まえがきからしておもしろい。買うべき理由が書いてあった。「1. 読まなくていい。2. 読後感が良い。3. 風呂の中で読める。」等々……（詳しい説明はぜひ読んでもらいたい）。そして、教授の屁理屈をこねまわして、そうなのかと思わせる話法！結局どうなんだとつっこみたくなります。なによりも、教授と助手のやりとりや、妻との話は見逃せません！！

でも、必見……かも？

（H.M）

西靖

にし　やすし

『西靖の 60 日間世界一周旅の軌跡』

出版社：ぴあ株式会社関西支社／出版年：2010 年

NDC：290.9

作家紹介

1971 年、岡山市生まれのアナウンサー。岡山一宮高校、大阪大学法学部卒業。1994 年に毎日放送（MBS）に入社し、今もなおアナウンサーとして、テレビやラジオ番組で活躍している。

2010 年、MBS 創立 60 周年記念企画の一環として「60 日間世界一周の旅」を行い、番組（ちちんぷいぷい）内で紹介していった。

スポーツや芸能、トークも含めて何でもできる、関西では有名なアナウンサーである。

わたしのオススメ

この本では、西さんや番組スタッフたちが、普段旅行では行かないような国など、31 カ国で体験したいろんな旅の記録が書かれている。

西さんの行った国の中で、私が一番行きたいなと思った国は、「サンビア」という国だ。初めて聞いた国名だったし、ビクトリアの滝に虹が架かっていた写真は本当にきれいで、私も生で見てみたいと思ったからだ。

このちょっと変わった旅行記で、自分の行ってみたい国を見つけてみませんか？

（Y.H）

原研哉

はら　けんや

『ポスターを盗んでください＋3』

出版社：平凡社／出版年：2009 年／NDC：757.04

作家紹介

1958 年、岡山市生まれ。岡山操山高校卒、武蔵野美術大学大学院デザイン専攻修了。

現在はグラフィックデザイナー、武蔵野美術大学基礎デザイン学科教授、株式会社日本デザインセンター代表取締役として活動中。

デザイナーとしては無印良品のアートディレクション、長野オリンピックの開・閉会式プログラム、愛知万博のプロポーション、AGF、JT、KENZO の商品デザインなど多数。これらのデザインにより、日本文化デザイン賞ほか数多くの賞を受けている。また、高校時代の同級生・原田宗典の作品の装丁も多く手掛けている。

著作はサントリー学芸賞受賞作『デザインのデザイン』、『白』など。

わたしのオススメ

1995 年に新潮社から刊行された『ポスターを盗んでください』に、三編の書き下ろしを加えたエッセイ集。作者が今までに手がけたデザインについて、時にユーモアを交えながら記されている。

デザインというと、広告業や服飾関係を思い浮かべる人が多いだろう。しかし本書に出てくるデザインは実に様々だ。例えば、うどんやパスタの形状のデザイン。どうすれば麺に味が絡むのか、食感はどのくらいがベストなのか……。

作者がどんなデザインに対しても真剣に取り組んでいることが伝わってくる作品だ。ちなみに、本書の装丁はもちろん作者自身。是非、実際に本を手に取って、紙の質感や文字の書体まで楽しんでほしい。　　（H.O）

原田マハ

はらだ まは

『カフーを待ちわびて』

出版社：宝島社／出版年：2006 年／NDC：913.6

作家紹介

1962 年生まれの小説家、キュレーター（博物館や美術館などの管理監督職）、カルチャーライター。山陽女子高校、関西学院大学文学部、早稲田大学第二文学部卒。兄は同じく小説家の原田宗典。

『カフーを待ちわびて』で第 1 回日本ラブストーリー大賞受賞。リゾート開発計画の持ち上がっている沖縄の離島を舞台に、雑貨店を営む主人公と、謎を秘めながらも島にやってきた女性「幸」の不思議な共同生活を描いており、2009 年に映画化された。ほか、『インディペンデンス・デイ』、『キネマの神様』、『ランウェイ☆ビート』など。

わたしのオススメ

与那喜島にやってきた幸は、島の様々なものに興味を示す。ちっちゃな家の様な先祖代々入る墓、島のお祭り、裏のおばあの作る料理の数々。

この作品には温かな沖縄の空気がたっぷりと含まれていて、見ている私たちもほのぼのとした気持ちになる。同時に、家族のいない主人公の明青、幸、裏のおばあが各々の過去と現在を乗り越えようとしながら生きてゆく姿は魅力的だ。

カフー（果報）とは与那喜島の方言で、いい報せ、幸せの意味。最後まで読み終えたとき、皆さんの心の中には「カフー」の言葉がしみ込んでいるでしょう。

（K.H）

原田宗典

はらだ むねのり

©角川書店

『人の短篇集』

出版社:角川書店／出版年:1997 年／NDC:913.6★

作家紹介

1959 年生まれの小説家、コピーライター、「東京壱組」座付作者。岡山操山高校、早稲田大学第一文学部演劇科の卒業生で、山口二郎、原研哉は高校時代の同級生。妹は、同じく小説家の原田マハ。

16 歳の時に書いた短編「失透」が学研コース文学賞に入選し、生まれて初めて自分の書いたものが活字になる喜びを知ったという。大学在学中からコピーライター・岩永嘉弘の下でアシスタントとして活動する傍ら小説を書く。

代表作『お前と暮らせない』(第八回すばる文学賞入選)、『十七歳だった！』、『0 をつなぐ』など多数。小説だけでなく、エッセイや戯曲など幅広い分野で活躍している。なお、コピーライターとしての受賞も多く、劇団「東京壱組」への戯曲執筆なども手掛ける。

『人の短篇集』では、人についての短編が 21 編集められている。一つ一つが 4 ページ前後で、サラッと読める。

わたしのオススメ

最後にある「レフェリーの勝利」は、レフェリー(ここでは、ボクシングの審判員)の資格を取って初めてリングに立った地方公務員の男のストーリーで、さわやかな作品だ。同じリングの上だが、ボクサーではなくレフェリーに焦点を当てた、ちょっと変わった話である。

ちょっと不思議な原田宗典ワールドに、たっぷり浸ってみてください。

(Y.O)

東川篤哉

ひがしがわ　とくや

『殺意は必ず三度ある』(JOY NOVELS)

出版社:実業之日本社／出版年:2006 年／NDC:913.6

作家紹介

1968 年広島県尾道市生まれ。岡山大学法学部卒。

2002 年『密室の鍵貸します』がカッパ・ノベルスの新人発掘プロジェクト「Kappa-One」第１弾に選ばれ、作家デビュー。長編デビュー前には「東篤哉」として「中途半端な密室」、「竹と死体と」など短編数本を発表している。

2010 年発表の『謎解きはディナーのあとで』は、口コミなどでじわじわと世間に浸透していき、ついには累計 100 万部を突破する大ベストセラーとなり、2011 年本屋大賞を受賞した。

わたしのオススメ

「鯉ヶ窪学園探偵部」のもとへ野球部のベースが盗まれたという相談が持ち込まれる。早速動き出す探偵部だったがその先々で 3 度の殺人事件が起こる。そして現場には盗まれたベースとグローブとボールが置かれていた。

すべての謎が最後に 1 つ結びつくトリック重視の本格ミステリーとそれを彩る個性的な人物、ユーモアある会話。東川ワールド全開で時間を忘れて読み進めてしまうこと間違いなし！

このシリーズには『学ばない探偵たちの学園』、『放課後はミステリーとともに』があります。

（T.K）

平松洋子

ひらまつ　ようこ

『ひとりひとりの味』(よりみちパン！セ)

出版社:理論社／出版年:2007 年／NDC:596

作家紹介

エッセイスト、フードジャーナリスト。

岡山県倉敷市出身で、東京女子大学文理学部社会学科を卒業。アジアを中心として世界各地を取材し、『食文化』と『暮らし』をテーマに執筆活動を行っています。

2006 年、『買えない味』で山田詠美の選考により、ドゥマゴ文学賞を受賞しました。食文化に関するエッセイストとして、日本の第一人者です。

わたしのオススメ

「自分がおいしいと思う味って、どんな味だと思う？(本文より)」

国の数だけ、家庭の数だけ『食文化』があり『味』がある。好きな味、嫌いな味も人それぞれだけど、それでいい。この本では著者の幼少期からの経験を交え、食事をするということについて奥深さ・面白さや楽しさを教えてくれます。食に対する喜びや愛情が感じられ、子どもから大人まで楽しめる内容になっています。読んだ後は、食事が楽しくなること間違いなしです！

(S.S)

広井良典

ひろい　よしのり

『ケアを問いなおす』(ちくま新書)

出版社:筑摩書房／出版年:1997 年／NDC:369.26

作家紹介

1961 年、岡山市生まれ。千葉大学法経学部総合政策学科教授。専門は医療経済、社会保障論、科学哲学。

東京大学教養学部(科学史・科学哲学専攻)卒業、同大学院総合文化研究科修士課程修了。厚生省に勤務し、1996 年に千葉大学法経学部助教授になる。2009 年、『コミュニティーを問いなおす』で第 9 回大佛次郎論壇賞受賞。医療や社会保障に関する政策研究から、時間、ケア等をめぐる科学哲学的な考察まで、幅広く活動している。

現在、東日本大震災と原発事故からの復興と、その先の日本全体の再設計を論じあう「ニッポン前へ委員会」の委員も務めている。

わたしのオススメ

「ケアとは何だろうか」この本はそんな問いから始まります。普段当たり前のように使っているケアという言葉を、様々な視点から考えていく本です。

私は、今までケアについて深く考えたことはありませんでしたが、この本を読んで色々考えさせられました。書いてあることの全てを理解するのは難しかったですが、図やグラフや例などがたくさんのっており、わかりやすかったです。皆さんもこの本を読んで、「ケア」とは何か、考えてみませんか。

(R.N)

星野仙一

ほしの　せんいち

©角川書店

『夢　命を懸けたＶ達成への 647 日』

出版社：角川書店／出版年：2003 年／NDC：783.7

作家紹介

1947 年、倉敷市生まれ。中学で野球部に入り、高校は倉敷商業、大学は明治大学政経学部へ入学。1969 年ドラフト 1 位で中日に入団。1974 年には先発、抑えの両方で活躍し、15 勝 10 セーブの成績で優勝に貢献、同年の沢村賞と最多セーブ賞を受賞。闘争心を全面に押し出したプレーで対巨人戦 35 勝をあげ、「燃える男」の異名をとった。1982 年に現役を引退し、中日、阪神で監督に就任。中日では二度の優勝、阪神では、18 年ぶりのリーグ優勝に導いた。

倉敷美観地区内に「星野仙一記念館」がある。

わたしのオススメ

「大事なのは you、お前や！」どん底にあった阪神タイガースを 18 年ぶりの優勝に導いた闘将・星野仙一が、この本を通して、いま、全てを語っているところが、この本の一番の魅力。阪神ファン、星野ファンには、特にオススメの本。本を読むにつれて、星野仙一の熱い情熱が伝わってくること、間違いなし！

（T.O）

ボンボヤージュ

ぼんぼやーじゅ

『ちびギャラ』

出版社：ゴマブックス／出版年：2002 年／NDC：726.6★

作家紹介

1973 年、倉敷市生まれのイラストレーター。

主に頭の大きい動物キャラクターを描く。出版・Web・グッズなど、幅広い分野で活動中。自身のホームページの 1 コーナー「ちびギャラリー」から誕生した書籍『ちびギャラ』シリーズが人気を呼び、ぬいぐるみやカレンダーなどのグッズにもなっている。

わたしのオススメ

ちょっといいこと言っていたり、どうでもいいこと言っていたり……。読み終わるとなんだか元気が出てくる、そんなシリーズです。他にも“旅ボン”という珍道中エッセイや、“ちびギャラ”グッズなど、いろいろあります。

作者自らが運営するサイト「Bonboya-zyu Gallery」でも、気軽に“ちびギャラ”を閲覧できます。2011 年 8 月現在は東日本大震災応援メッセージがトップページに流れています。

ちょっと疲れたら、お気に入りの一言を探しに行ってみてください！

（C.T）

水戸岡鋭治

みとおか　えいじ

『水戸岡鋭治の「正しい」鉄道デザイン』
（交通新聞社新書）

出版社：交通新聞社／出版年：2009 年／NDC：536

作家紹介

1974 年、岡山県生まれのインダストリアル・デザイナー。岡山工業高校デザイン科の卒業生で、72 年にドーンデザイン研究所を設立。オリジナル家具の店「BOSCO」を東京・岡山に開設した。九州新幹線「つばめ」など多くの車両・駅舎デザインを手がけており、国際的な鉄道関連デザインの賞であるブルネル賞をはじめ、ローレル賞、ブルーリボン賞等多数受賞している。2011 年にオープンした大阪ステーションシティ（OSC）では、8 つの広場のデザインを監修した。

岡山県では県野球場や JR 岡山駅、桃太郎スタジアムの内装デザイン、岡山電気軌道の超低床路面電車「MOMO」の車両デザイン（第 1 回日本鉄道賞受賞）などを手がけている。

わたしのオススメ

水戸岡さんの基本は、楽しかったシーンや一番記憶に残るシーン、感動するシーンを作るにはどうしたらよいかという考えを持つことです。九州新幹線のつばめはヘッドライトが縦に並んでいるタテ目という形になっています。これは今までに見たこともないものにしたいという思いからだそうです。

この仕事は 99%が速く安全に走る箱作で残り 1%が客室やイスのデザインをする仕事。しかし、その 1%が期待値を超えていないと頑張ってきた 99%の凄さが伝わりません。これがその 1%を輝かせる仕事です。

（M.Y）

保江邦夫

やすえ　くにお　（監修）

『早わかり物理 50 の公式』（ブルーバックス）

岡山物理アカデミー編／出版社：講談社／出版年：2007 年

NDC：420

作家紹介

1951 年岡山県生まれ。東北大学で天文学を、京都大学、名古屋大学で理論物理学・数理物理学を学ぶ。理学博士。学位取得後、スイス・ジュネーブ大学理論物理学科に奉職。確率変分学の開拓者として知られる。また、武の神人とうたわれた故佐川幸義宗範の直伝を受けた大東流合気柔術を心の糧とし、真理研究のみを目指して生きている。

現在、ノートルダム清心女子大学大学院人間複合科学専攻教授（精神機能論）、情報理学研究所所長・教授。

著書に『数の論理』、『エクセルで学ぶ金融市場予測の科学』など多数。

わたしのオススメ

救急車のサイレンが遠ざかるほどに低く聞こえるドップラー効果（ドップラー）、落下するリンゴと地球が互いに引き合う万有引力（ニュートン）などの有名なものから、ローレンツ、プランク、ダランベールなどの誰それ？となる物理学者や物理公式について、わかりやすく説明されている。彼らが生きた時代の音楽も掲載（例：ローレンツ力……バレエ組曲「くるみ割り人形」、チャイコフスキー）。僕のオススメは、超有名なアインシュタインの公式です。

（R.A）

八束澄子

やつか　すみこ

『パパは誘拐犯』(講談社青い鳥文庫)

出版社:講談社／出版年:2011 年／NDC:913.6

作家紹介

1950 年生まれの児童文学作家。日本児童文学者協会会員。「季節風」、「松ぼっくり」同人。現在、岡山県倉敷市に在住。

「だんまりぼくとおかしなあいつ」で第 18 回岡山県文学選奨(童話の部)入選、『青春航路ふぇにっくす号』で第 34 回日本児童文学者協会賞を、『わたしの、好きな人』で第 44 回野間児童文芸賞受賞。『シンタのあめりか物語』が第 44 回、『海で見つけたこと』が第 50 回の青少年読書感想文全国コンクール課題図書(小学校高学年の部)に選ばれている。

わたしのオススメ

小学 4 年生のまり亜のパパはタイ生まれ。日本人のママとは国際結婚だ。春休み中のある日、パパが学童クラブにまり亜を迎えに来て、これからタイのおばあちゃんの家に行こうと言う。突然の話にとまどいつつも、ゾウに乗れると聞いて、動物好きのまり亜の心は動かされる。しかし、実はその旅行はママと弟には内緒にされていたのだった。

とてもタイの風景や文化、雰囲気について詳しく書かれていて、まるで自分もまり亜たちとタイを走り回っているような気分になった。まり亜たちの絆を感じて、読んだ後は温かい気持ちになれるはずだ。

(C.T)

矢吹健太朗

やぶき　けんたろう

『ToLOVE る　とらぶる　1』(ジャンプコミックス)
出版社:集英社／出版年:2006 年／NDC:726.1★

作家紹介

1980 年、高知県高知市生まれ。中学二年から岡山県で過ごす。岡山工業高校の卒業生で、現在は漫画家として活動している。第 14 回天下一漫画賞で『MOON DUST』により秋本治審査員特別賞を受賞。

デビュー時は現役高校生で、初連載である『邪馬台幻想記』開始時は 18 歳という若さであった。主に「週刊少年ジャンプ」に専属し、作品を掲載する。

代表作は『BLACK CAT』他。

わたしのオススメ

高校生になったが恋愛に奥手な、ごく普通の男子生徒、結城リトが主人公。両思いのクラスメイト西連寺春菜とは、互いにその事を知る由も無く、日々苦悩していた。そんな中、宇宙人のデビルーク星の王女ララ・サタリン・デビルークが彼の元にやって来る。ある勘違いからリトはララと婚約することになってしまい、春菜にも誤解され、災難に見舞われるようになってしまったリトの日常が描かれた物語。

かなり過激な表現が多いが、コメディーなので楽しく読み進められる。しかし、高校生の複雑な心情も繊細に描かれている。

(Y.K)

山尾悠子

やまお　ゆうこ

『歪み真珠』

出版社：国書刊行会／出版年：2010 年／NDC：913.6

作家紹介

1955 年、岡山市生まれの小説家、幻想文学作家。岡山操山高校、同志社大学文学部国文科卒。大学在学中の 1973 年に「仮面舞踏会」を「SF マガジン」のコンクールに応募したところ、選外優秀作に選ばれ、1975 年にデビューを果たす。その後、山陽放送に入社し、テレビ制作部で美術を担当するが、1979 年に退社、執筆に専念する。

幻想的でシュールな世界観と現代詩から取り入れた硬質で精密な文体は完成度が高く、小松左京や筒井康隆にも絶賛され、SF 界の異色の新星として注目を浴びた。

ほか、『仮面物語』、『ラピスラズリ』、『夢の遠近法』など。

わたしのオススメ

15 の作品から成る幻想文学小説の短篇集。いずれの作品からも違った雰囲気を味わうことができ、興味を惹きつけられる。

人物や場面の情景などには想像をかき立てられ、奥深い文章は余韻を残してゆく。幻想譚と理解していても意味深に感じられる文章は自然と深読みをしてしまう。読み終わった直後、余韻と共に普遍性も感じられ、幻想と現実が上手くつながってしまったような感覚に陥る。

山尾悠子の作品の魅力であると思う。

（Y.H）

山口二郎

やまぐち　じろう

『若者のための政治マニュアル（講談社現代新書）』

出版社：講談社／出版年：2008 年／NDC：310.4

作家紹介

1958 年、岡山市生まれの行政学者。岡山操山高校、東京大学法学部政治学科卒業。同学部助手を経て、北海道大学教授に就く。現在、北海道大学大学院法学研究科教授（行政学）。主な研究テーマは、日本の政治・社会における官僚制の役割について。

論壇の第一線で政治評論を多く執筆しており、著書に『大蔵官僚支配の終焉』、『一党支配体制の崩壊』、『危機の日本政治』、『ポスト戦後政治への対抗軸』、『政治改革』、『日本政治の課題』、『戦後政治の崩壊』、『ブレア時代のイギリス』、『内閣制度』などがある。

わたしのオススメ

この本は、政治において必要な 10 個のルールが書かれている。その中の一つ、「生命を粗末にするな」では政治に最も大切な目標は生命を尊重することである、とある。何が崇高な価値と考えるかは人・文化・国によって様々で、為政者が崇高だと考える生き方を国民に押しつけてはいけない。また、政治家には国民の生命を預かる覚悟が必要だ。政治の使命とは人間が人生を全うできるような平和を守らなくてはならぬというもので、平和な社会とは人間が人間らしく生きることが尊重される社会である。

若者も政治から逃げてはいけない。

（C.A）

山田ズーニー

やまだ　ずーにー

『話すチカラをつくる本』(知的生きかた文庫)

出版社:三笠書房／出版年:2007 年／NDC:361.45

作家紹介

1961 年、岡山県生まれ。文章表現・コミュニケーションインストラクター。「ズーニー」とはカシミール語で「月」という意味で、北インドのカシミール地方を旅した時に地元の人から名付けられたもの。

1984 年福武書店に入社。進研ゼミ小論文編集長となり、通信教育の企画・編集・プロデュースを手掛ける。2000 年に独立し、フリーランスとして中高生・大学生から社会人・教師・プロのライターまでと幅広い層の「文章表現力・コミュニケーション力」の育成に取り組んでいる。

著作は『伝わる・揺さぶる！文章を書く』、『おとなの小論文教室。』など。

わたしのオススメ

コミュニケーションの基礎をたった 1 時間でマスターできる一冊。なぜ自分の話は通じないのか？コミュニケーションをうまくとるために必要なのは「話すチカラ」、つまり自分の想いを上手に言葉にして相手に伝え、望む状況を切り拓いていく力です。

相手から見た自分、一番言いたいこと、なぜそう言えるのか、目指す結果、問いに基づいた話し方、相手から見た自分の言葉、言葉の根っこにある想い。この 7 つの点から自分の話すチカラを考えましょう。

日常会話だけでなく、プレゼンに告白にと大活躍間違いなし！

（R.S）

吉岡平

よしおか　ひとし

『無責任艦長タイラー』（富士見ファンタジア文庫）

出版社：富士見書房／出版年：1989 年／NDC：913.6

作家紹介

1960 年、笠岡市生まれの小説家。代表作にアニメ化された「宇宙一の無責任男シリーズ」などがある。『ターミネーター』、『スパルタン X』など映画のノベライズも執筆している。

笠岡高校卒業、早稲田大学第二文学部中退。早稲田大学漫画研究会出身。在学中より編集プロダクションのスタジオ・ハードで学生バイト、フリーライターを経験し、その縁で 1984 年『小説版コータローまかり通る！』でデビューした。また、アイドル研究家「林明美」としても活動している。

わたしのオススメ

吉岡平さんがおくるスペースオペラです。

中高年層にはおなじみのもとクレイジーキャッツの植木等さんが演じてきたキャラクターが戦艦の艦長になったらというコンセプトで作られた作品です。

クレイジーキャッツを知っている方はより楽しく、知らない方でも十分に楽しめる作品です。

20 年以上前の作品ですが、高校生の私たちが読んで十分楽しめる作品だとおもいます。

（Y.T）

流王雄太

りゅうおう　ゆうた

『それでも、前へ　四肢マヒの医師・流王雄太』

著者：高橋豊／出版社：毎日新聞社／出版年：2006 年

NDC：289.1

被伝者紹介

1966 年生まれの精神科医師。岡山一宮高校出身。高校 1 年だった 1982 年、所属していたラグビー部の遠征試合中に脊椎を損傷し、四肢麻痺となる。岡山大学理学部数学科、同大学医学部卒業後、精神科医として同大学病院等で活躍している。

2007 年、第 9 回ありのまま自立大賞受賞。現在、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室医員、岡山済生会総合病院心療科・神経科非常勤医師。

わたしのオススメ

この本で書かれている流王さんは、高校のときにラグビーの試合で頸髄損傷を負い、四肢麻痺になってしまいました。

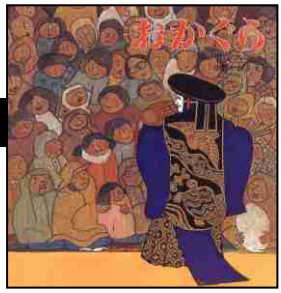
しかし、流王さんは、それでもめげず一旦岡山大学数学科に入学した後、再び同大学の医学部医学科に入りなおすという偉業を成し遂げています。

ぼくはとても感銘を受け、勇気ももらいました。だから、この本は、特に受験を控えた三年生に読んでもらいたい一冊です。ぜひ手に取ってじっくり読んでみて下さい。

（Y.N）

脇明子

わき　あきこ



『おかぐら』

ぶん：脇明子、え：小野かおる／出版社：福音館書店
出版年：1996 年／NDC：E★

作家紹介

1948 年香川県生まれの英国ファンタジー研究者・翻訳家。現在、ノートルダム清心女子大学児童学科教授、同大学附属図書館館長、岡山県子ども読書活動推進会議会長、岡山子どもの本の会代表を務める。研究テーマは、児童文学（特にイギリスを中心とするファンタジー文学）、絵本の歴史、子どもの読書問題（読書が心の発達にもたらすものについて）。

祖母は歌人の脇須美。母の脇和子とは絵本の共著がある。夫は児童文学研究者、翻訳者の歌崎秀史。

東京大学教養学科科学史・科学哲学専修卒業、同大学院比較文学比較文化専修に進学し、泉鏡花についての修士論文を『幻想の論理』として刊行。その後、ノートルダム清心女子大学勤務の傍ら、デ・ラ・メア、ル＝グウィンなど英語ファンタジーの翻訳を数多く刊行する。

わたしのオススメ

夏休みに田舎へ帰った時のような懐かしさや、わくわくする気持ちを味わえ、読み終わった後には、心の中に温かいものが残ります。神様の絵がとても細かいところまで描かれていて、自分もお祭りの中に飛び込んだような、楽しい気持ちになれます。最後、くに子の夢の中で、たけちゃんと一緒にオロチに乗って夜空をどこまでも飛んでいくところが一番オススメの場面です。

（N.K）

ほか、岡山に縁のある人々

藍本松（漫画家／岡山市立岡山後楽館高校卒）	『保健室の死神』
秋田麻早子 （考古学者／岡山朝日高校卒）	『掘れ掘れ読本』
東めぐみ （寺務・小説家／岡山市）	『千日紅　花ごよみ』
天野智徳 （津山市／倉敷天城高校卒）	『メガレンジャー百万倍の名言集』
天野洋一 （漫画家／瀬戸南高校卒）	『AKABOSHI　異聞水滸伝』
飯島耕一 （詩人／岡山市）	『ゴヤのファーストネームは』
池内ひろ美 （夫婦・家族問題コンサルタント／岡山市）	『良妻賢母』
石井敏弘 （小説家／倉敷市）	『風のターンロード』
石堂淑朗 （シナリオ作家・小説家）	『偏屈老人の銀幕茫々』
入野和生 （元・岡山放送特別顧問）	『生命（いのち）ながらえて』
宇月原晴明 （小説家）	『安徳天皇漂海記』
江刺昭子 （評伝作家）	『樺美智子　聖少女伝説』
岡田篤宏 （有限会社 TRPG・TIME 代表取締役）	『りゅうたま』
小田晋 （精神科医／岡山朝日高校卒）	『指導者の精神構造』
オノ・ナツメ （漫画家／岡山市）	『つらつらわらじ 備前熊田家参勤絵巻』
霞流一 （推理作家／和気町）	『おなじ墓のムジナ』
片山峰子 （岡山朝日高校卒／元・同校司書）	『瓶井の塔』
川越文子 （児童文学・童話作家／倉敷市）	『坂道は風の通り道』
川田伸一郎 （動物学者／瀬戸町（現岡山市））	『モグラ博士のモグラの話』
かわはらなつみ （漫画家）	『親指の秘めごと』
菅直人 （第 94 代内閣総理大臣）	『大臣』
神崎宣武 （民俗学者／宇佐八幡神社宮司）	『吉備高原の神と人』
岸本尚毅 （俳人／和気町）	『俳句の力学』
木村えいじ （漫画家／美作市／岡山湯郷ベル マスコットキャラクター「ベルルン」デザイン）	『マダラ　闘犬無頼控』
響堂新 （小説家／長船町（現瀬戸内市））	『紫の悪魔』
楠かつのり（映像作家、詩人／津山市）	『「詩のボクシング」って何だ！？』

倉田英之 （アニメ脚本家、小説家／井原市）	『R.O.D READ OR DIE』
栗田勇 （小説家・評論家／岡山第六高校卒）	『反世界の魔 情念の中の政治』
胡桃ちの （漫画家／津山市／津山高校卒）	『なにわ OL 奮戦記』
河本ぼあら （建築士／西大寺高校卒）	『河本ぼあらの地球はまあるいよ』
小林朋道 （元・岡山朝日高校教諭／鳥取環境大学教授）	『先生、巨大コウモリが廊下を飛んでいます！』
斎藤恵子 （詩人／岡山学芸館高校国語講師）	『海と夜祭』
山海嘉之 （工学博士／岡山朝日高校卒）	『我らクレイジー☆エンジニア主義』
塩見鮮一郎 （作家／岡山市）	『貧民の帝都』
関屋敏隆 （絵本作家／津山市）	『やまとゆきはら 白瀬南極探検隊』
ゾルゲ市蔵 （漫画家／倉敷古城池高校卒）	『横綱大社長』
田嶋陽子 （女性学者／鴨方町（現浅口市））	『恋をしまくれ 私の体験的恋愛論』
多田千香子 （岡山朝日高校卒）	『おやつ新報へ、ようこそ。』
辰吉丈一郎 （ボクサー／倉敷市）	『それでもやる』
塚本青史 （歴史小説作家／倉敷市）	『三國志 曹操伝』
堤玲子 （小説家／岡山市）	『わが闘争』
綱島志朗 （漫画家）	『ジンキ』
ディスク・ふらい	『ハルカの陶（すえ）』（原作）
寺田克也 （イラストレーター・漫画家／玉野市）	『西遊奇伝大猿王』
時実新子 （岡山西大寺高等女学校卒）	『有夫恋』
徳渕真利子 （東海道新幹線パーサー）	『新幹線ガール』
中江俊夫 （詩人／倉敷天城高校卒）	『語彙集』
中山星香 （漫画家／倉敷青陵高校卒）	『妖精国の騎士』
難波一夫 （子育て・教育なんでも相談ネットワーク代表）	『心に包帯をまいて』
なんばみちこ （詩人／総社市在住）	『下弦の月』
にしがきひろゆき （漫画家／岡山市）	『ちょこらん』
西崎康正 （漫画家）	『ハルカの陶（すえ）』（作画）
はたよしこ（秦芳子） （絵本作家）	『そらのたべかたおしえましょう』

馬場民雄（漫画家／津山市）	『虹色ラーメン』
檜山うめ吉 （俗曲師／倉敷市）	『俗曲師うめ吉のニッポンしましょ！』
平松伸二（漫画家／高梁市）	『ブラック・エンジェルズ』
フクシマハルカ （漫画家／真庭市）	『キミノネイロ』
松田範祐（児童文学・童話作家／倉敷市）	『きつねくんのてじな』
松本幸子 （岡山操山高校卒）	『閑谷の日日』
三羽省吾（小説家／関西高校、岡山商大卒）	『太陽がイッパイいっぱい』
森永あい （漫画家）	『山田太郎ものがたり』
森山茂里 （岡山朝日高校卒）	『想い川』
山本祥一朗（エッセイスト）	『親と闘った文豪』
横田賢一 （山陽新聞記者）	『岡山孤児院物語　石井十次の足跡』
吉野令子（詩人）	『歳月、失われた蕾の真実』
吉橋通夫（児童文学作家）	『なまくら』
吉広紀代子（ノンフィクション作家）	『恐くないシングルの老後』
和田英昭（児童文学・童話作家／倉敷市）	『わたしの船長さん』
渡辺和子（ノートルダム清心学園理事長）	『目に見えないけれど大切なもの』

※ここで紹介しているのは、ごく一部の方です。

あとがき

本校図書委員会では、全校生徒が読書に親しむきっかけづくりとして様々な活動を行っている。その中で、文化祭の展示は本校生徒だけが対象ではなく、大きな行事として力を入れているものである。

本に親しむきっかけは、自分の何かにひっかかることだろう。身近な人に勧められるのも大きなきっかけとなる。

そこで、昨年は高校生が主人公である本を集めて紹介した。今年は、岡山にゆかりの人の本を紹介することにした。同郷の人、高校の先輩とかいうと、親しみもわくというものだ。生徒と一緒に 50 人以上の人を挙げ、図書委員一人につき一人の作家と本の紹介をすることにした（ただし、載せられなかった方や本が多数ある。生徒主体で選んだので、その点はお許しいただきたい）。

流れを書くと、昨年から今年度の内容について、委員長中心に検討をし、今年度早めに担当を決めた。その後、生徒は本を読み、作者について調べ、原稿を書いた。校正や印刷は図書課の教員は分担して行った。製本は土師印刷さんにお願いした。

最後に編集に関しての考えを書いておきたい。

岡山人って？

「岡山」ゆかりといっても、在住・出身等さまざまである。入れてもいいの？と思われる人物もいるかもしれないが、無関係の人はいないので、紹介文を読んでほしい。

現代の作家

岡山の作家というと、内田百閒や坪田譲二などがすぐ頭に浮かぶかもしれないが、この冊子では現在活躍している人を中心にまとめた。過去の人に関してはいくつも本があるし、高校生が身近に感じるのも現在の人が多いと思うからである（住宅顕信と時実新子は故人）。

ジャンルも様々

取り上げたのは小説だけではない。漫画や新書なども含め、要するに書店・図書館で目に触れやすいものを対象とした。

敬体・常体混交

文体が統一されていないが、図書委員それぞれの表現を生かし、そのままにしている。

作者の現在

紹介の中で、「現在」というのは、2011 年 8 月 20 日現在のことである。発行時変更されているものもあるだろうし、調べが足らず古い資料を使ったものがあるかもしれない。

司書・司書教諭でできるだけ確認したが、間違いがあればご容赦願いたい。

司書の力

今回の制作にあたっては、司書の力に負うところが大きい。昨年のフォームに従って始めたが、より見やすい形にレイアウトも考えた。生徒が原稿を元にパソコンに入力するとき、いつもそばにいた。各出版社への掲載依頼も行った。一番大きかったのは原稿の確認である。作家の経歴については、元は生徒が調べたのだが、資料によって相違があったり、間違いもあったりして、確認は大変であった。岡山県との関係は、聞いてはいても、書かれているものが案外なかった。検証にはなかなか力がいったのだ。また、出身高校に関しては、全県の高校司書の方にもお世話になった。お礼を申し上げたい。

このようにして完成した今年の冊子、どうぞ楽しんで利用していただきたい。狭い岡山の中、意外な人間関係も見つかるかもしれない。

岡山は文化レベルの高い地域だ。郷土の作家を大切にしよう。

高見京子（司書教諭）

編集者

まえがき	和気雅弥(図書委員長)
あとがき	高見京子(司書教諭)
表紙	大橋初音(2 年 1 組)

図書委員一覧

1 年生	2 年生	3 年生
矢尾　燎兵	虫明　潤	髙原　千聖
坂田　詩歩	大橋　初音	武田　鈴加
松本　和也	石田　詩織	吉行　珠実
則武　晴子	松重　華菜子	清水　梨恵
田淵　悠輔	岡村　優里	大澤　希
北川　知夏	郷野　麻美	新井　知理
小林　優奈	濱田　倫花	髙馬　康宏
西江　真凜	橋本　美鴻	蜂谷　香穂里
長瀬　怜	阿部　遼	小野田　将之
中西　のぞみ	宇佐見　和紀	竹原　瑞樹
佐藤　沙紀	河合　俊和	濃野　優
松谷　茉由	榧　夏希	田中　千香子
御厩　徹	居樹　宗祐	佐藤　佳樹
石原　佑香	濵嶋　悠太	平松　剛
山口　実梨	平野　夏帆	和気　雅弥
濱田　結衣	山﨑　美幸	馬場　英佳
	吉田　拓	
	藤原　永子	

図書課教員一覧

林　俊輔
高見　京子
赤松　泰明
池田　亜須加
磯部　真実
亀山　道弘
駒越　丘
四十塚　輝実
神宝　啓子
谷川　淳
永瀬　理恵
橋本　鈴枝
東根　さやか

参考にした資料

・各著作、出版社、著者公式 Web サイトによるプロフィール紹介、インタビューなど

・日外アソシエーツ. 現代日本人名録　2004. 日外アソシエーツ, 2004. (CD-ROM).

・朝日新聞社編(1990)『「現代日本」朝日人物事典』朝日新聞社.

・上田正昭・ほか編(2001)『講談社日本人名大辞典』講談社.

・紀田順一郎・ほか編(1984)『現代日本執筆者大事典 77/82』日外アソシエーツ.

・紀田順一郎・ほか編(1992)『新現代日本執筆者大事典』日外アソシエーツ.

・中西敏夫訳・編(1998)『児童文学者人名事典　日本人編』出版文化研究会.

・中西敏夫編(2000)『YA (ヤングアダルト) 人名事典』出版文化研究会.

・「岡山はマンガ家大国！？」.『月刊タウン情報おかやま』2011 年 1 月号. p.36-37.
ビザビリレーションズ.

・「文学者紹介　吉備路文学館」. <http://www.kibiji.or.jp/literary-database.html>
2011 年 8 月 31 日アクセス.

これぞ岡山人の本　— 平成 23 年蒼碑祭 —

平成 23 年 9 月 10 日　発行

平成 23 年 9 月 30 日　第 2 版発行

編著者　岡山県立岡山芳泉高等学校図書委員会

発行所　岡山県立岡山芳泉高等学校図書課
〒700-8527　岡山県岡山市南区当新田 51-1
TEL:086(264)2801　／　FAX:　086(264)2803
http://www.hosen.okayama-c.ed.jp/

■印刷:岡山県立岡山芳泉高等学校図書課・図書委員会

■製本:土師印刷工芸株式会社　TEL:086(262)4077(代)　／　FAX:086(265)4834

※書影の使用については、各出版社の許諾を得て掲載しています。
※書影を含め、本書の内容を無断で複写・転載することを禁じます。